平生町 保存版 洪水 大内川・田布施川・灸川 ハザードマップ

洪水ハザードマップは、平生町で想定される洪水や災害が起こった時に必要な情報を示しています。
いざというときに備えて、このハザードマップをご活用ください。

●わが家の防災メモ

わが家の避難場所	避難場所までの移動時間　分
家族の集合場所（避難場所で会えなかった場合）	避難時の緊急連絡先

●家族の連絡先

家族の名前	生年月日	携帯電話番号	血液型	会社・学校などの電話番号

災害用伝言サービス

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。このような場合は、以下のサービスが開設されます。

災害用伝言ダイヤル 171

災害用伝言ダイヤル（171）は、大規模な災害が発生したときの「声の伝言板」です。電話を用いて安否情報（伝言）の録音・再生を行うことができます。

171をダイヤル
録音は1をダイヤル　再生は2をダイヤル
↓
被災地の方も、被災地以外の方も
被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤル
↓
伝言を入れる　伝言を聞く

災害用伝言板（web171）

スマートフォン・携帯電話・パソコン等から災害用伝言板（web171）にアクセスすることで、テキストによる安否情報（伝言）の登録・確認を行うことができます。

下記URLへアクセスし、案内に従って操作してください
https://www.web171.jp/

※上記の他に携帯電話各社から「災害用伝言板サービス」が提供されます。利用方法については各社ホームページ等でご確認ください。

災害用伝言ダイヤル（171）・災害用伝言板（web171）体験利用日
▶毎月1日と15日▶正月（1月1日～1月3日）▶防災週間（8月30日～9月5日）▶防災とボランティア週間（1月15日～1月21日）

【発行】平生町役場　〒742-1195　山口県熊毛郡平生町大字平生町210-1　TEL. 0820-56-7118（建設課）　令和3年3月作成

安全に避難するため、警戒レベルを参考にしましょう

水害や土砂災害の危険があるときには、町から警戒レベル３「高齢者等避難」、警戒レベル４「避難指示」を発令します。町からの避難情報に合わせて、速やかに安全な場所へ避難しましょう。

●警戒レベルと、みなさんがとるべき行動

▼※令和元年台風19号等を踏まえた避難情報及び広域避難等のあり方について（最終とりまとめ）参照

警戒レベル	状況	みなさんが取るべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1
	警戒レベル4までに必ず避難！		
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※2	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報（気象庁）

※1 町が災害の状況を確実に把握できるものはない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動（水平避難）だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。

避難行動判定フロー

台風や豪雨時にあわてずに避難をするためには、日頃から、周囲の災害リスクを把握し、いつ、どのような避難行動を取るべきか、事前に考えておくことが大切です。台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？　必ず取り組みましょう

ハザードマップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも、災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？
- いいえ → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。
- はい ↓

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。
- 例外 → ■浸水の危険があっても、次のような場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
  ▶洪水により家屋が倒壊、または、崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
  ▶浸水する深さよりも高いところにいる。
  ▶浸水しても水・食糧などの備えが十分にあり、水がひくまで我慢できる。
  ■土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり、安全確保をすることも可能です。

ご自身、または、一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

- はい ↓ 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？
  - はい → 警戒レベル3が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日頃から相談しておきましょう）
  - いいえ → 警戒レベル3が出たら、町が指定している指定避難所に避難しましょう。
- いいえ → 安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？
  - はい → 警戒レベル4が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日頃から相談しておきましょう）
  - いいえ → 警戒レベル4が出たら、町が指定している指定避難所に避難しましょう。

非常持ち出し品の準備

いざというときには、ただちに避難しなければなりません。そのようなときに備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。

避難のとき、両手が自由に使えるようにリュックサックなどにまとめましょう。

食料

- □飲料水（1人1日2～3リットルを目安）
- □非常食（缶詰、乾パン、レトルト食品など）
- □携帯食（チョコレート、キャンディーなど）
- □粉ミルクと哺乳瓶（赤ちゃんがいる場合）

日頃から、食料と飲料水を、備蓄品として常備しておきましょう。

救急・安全対策

- □常備薬（胃腸薬、かぜ薬など）
- □包帯、ガーゼ、ばんそうこう
- □傷薬、消毒薬
- □持病のある方の薬
- □ヘルメット、防災ずきん
- □ホイッスル

貴重品

- □現金（小銭）
- □預貯金通帳、印鑑
- □クレジットカード類
- □健康保険証
- □免許証など（本人確認できるもの）

衣類など

- □衣類（厚手の物と薄い物）
- □下着類
- □タオル、毛布
- □手袋、軍手
- □寝袋
- □雨具

日用品など

- □ポリ袋（ビニール袋）
- □新聞紙
- □ろうそく、ライター
- □ナイフ、缶切り
- □ティッシュペーパー
- □ウエットティッシュ
- □懐中電灯（予備電池）
- □携帯ラジオ（予備電池）
- □携帯電話（充電器・バッテリー）
- □筆記用具（油性マジック）
- □洗面用具
- □メガネ
- □マスク
- □使い捨てカイロ
- □紙おむつ
- □生理用品
- □体温計
- □布ガムテープ
- □ロープ
- □地図（ハザードマップ）

備蓄品の準備

日頃から、7日分の食料と飲料水を備蓄品として常備しましょう。

食料

- □飲料水（1人1日3リットルを目安）
- □米（缶詰やレトルトのご飯なども便利）
- □缶詰や菓子類
- □粉ミルク・離乳食

燃料・日用品など

- □カセットコンロ
- □予備のガスボンベ
- □毛布または寝袋
- □ブルーシート
- □割り箸
- □衣類
- □新聞紙
- □簡易トイレ
- □布製ガムテープ
- □キッチン用ラップ
- □なべ

備蓄 → 消費 → 補充 を繰り返す

ローリングストック（循環備蓄）を心がけましょう

ローリングストック（循環備蓄）とは、普段から使用する食材、加工品を多めに買っておき、使ったら使った分だけ買い足していくことで、常に一定量の食料を家庭に備蓄しておく方法のことを言います。この備蓄方法を行うことで、いざというときも日常生活に近い食生活を送ることができます。

平生町防災メール

平生町では安全・安心のまちづくりを推進するため、町の防災に関する情報を電子メールで配信する「平生町防災メールサービス」を行っています。携帯電話やパソコンなどのメールアドレスをお持ちであればどなたでも登録できます。

登録方法

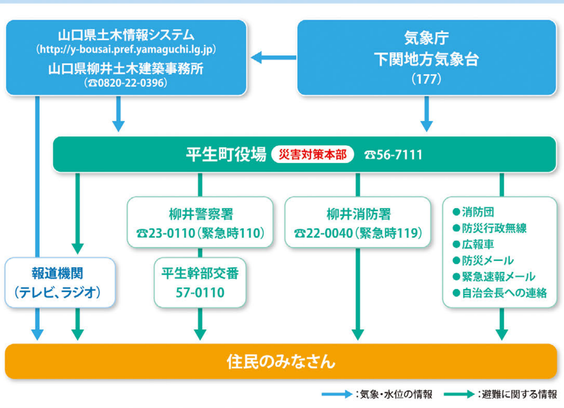
①次の登録用メールアドレスに、件名・本文を入力せずにメールを送信して下さい。
登録・変更用アドレス▶　e-hirao@xpressmail.jp
※QRコード対応の携帯電話の場合、右図からアドレスを読み取ることができます。
②本登録用メールが返ってきますので、メール本文内に記載されたURLをクリックし、インターネットに接続してください。
③登録画面が表示されますので、「利用規約」をご覧のうえ、必要な情報を選択し、「確認」ボタンを選択します。
④登録確認画面が表示されますので、内容を確認して「登録」ボタンを選択すると登録が完了します。

無線放送確認テレホン（オオムセン）

電話番号：57-0061　屋外スピーカーから流れた役場からの放送を電話で確認することができます。（消防のサイレンなどは除く）

避難情報の入手経路

災害が発生したり、発生するおそれがある場合に、町は避難に関する情報を発表します。災害情報や気象情報はテレビやラジオ、ホームページ等で確認できるので、日頃から情報を入手して確認するようにしましょう。



避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、特に災害発生のおそれがある場所に居る人は、早めの避難を心がけましょう。

状況により、すばやく避難しましょう
避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。

浸水時、自動車での避難は危険
普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。

浸水時に長靴は厳禁
避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。動きやすい服装で避難しましょう。

家族には連絡メモを残そう
外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくと良いでしょう。

防災メモを持とう
高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。

集団で助け合おう
単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。

持ち出し品は最小限に
非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。

安全なルートで避難
避難先への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

要配慮者への避難支援

要配慮者とは、災害発生時に避難の手助けが必要な人々のことです。一般に高齢者や障害者、乳幼児や妊産婦、日本語を十分理解できない外国人などが該当します。地域で協力しあいながら、要配慮者の安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。

高齢者・病人
●おぶって安全な場所まで避難する。
●複数の介助者で対応する。

目の不自由な方
●声をかけ情報を伝える。
●誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩手前をゆっくり歩く。

肢体の不自由な方（車椅子）
●階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
●介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。

耳の不自由な方
●話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
●手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

外国人
●話すときは、やさしい日本語で話しかける。
●身振りや手振りで話しかけ、孤立させない。

風が強いとき・大雨のとき

風水害はある程度事前に発生を予測することができます。危険が迫ったら早めに避難しましょう。

風が強いとき

室内では

●風圧や飛来物で、窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。●外側から板でふさいだり、内側から養生テープをメの字に貼り、カーテンを引いておきましょう。

屋外では

●看板が飛んだり、街路樹が倒れたりする危険があるので、近くの頑丈な建物の中に避難しましょう。●平均風速に比べて、1.5～2倍の瞬間風速に注意しましょう。

海辺では

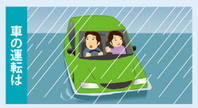
●転落や高波に巻き込まれる危険があります。沿岸に近づかないようにしましょう。●強風、豪雨時はサイレンなどの警報が聞こえづらくなりますので十分に注意しましょう。

大雨のとき …集中豪雨の頻発化などに象徴されるように、昔に比べて豪雨の発生が急増しています。

室内では

●豪雨の際は、床下・床上浸水の危険があります。家財道具や貴重品を高い場所に移動しておきましょう。●非常持ち出し品をまとめておきましょう。●自宅の電源ブレーカーを「切」にしてから避難しましょう。

車の運転は



●豪雨で視界が悪くなると非常に危険です。あせらずに安全な場所に移動しましょう。●浸水でエンストしたときは、無理に再始動させるとエンジンを傷めてしまいます。

川辺・水路付近では

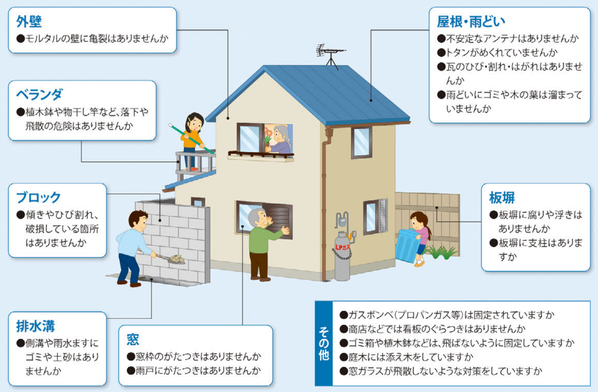
●急な増水や土石流の危険もあるので、速やかに離れましょう。●水深が浅くても流れに足をとられたり、水路が見えなくなっているときもありますので注意しましょう。●河川下流域では上流域の降雨による増水に注意しましょう。

●雨の強さ、降り方と災害の危険性等

	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量と予報用語	10～20mm未満	20～30mm未満	30～50mm未満	50～80mm未満	80mm以上
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。（ゴーゴーと降り続く）	●息苦しくなるような圧迫感がある。●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からのはね返りで足もとがぬれる。	●傘をさしていてもぬれる。●車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	●側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。●小規模のがけ崩れのおそれがある。	●山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難が必要。	●土石流が起こりやすい。●多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

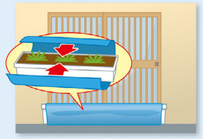
風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。

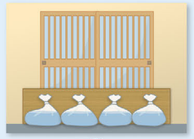


家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう（無い場合は水のう）を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板（はしごやテーブルでも可）などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておくと、より効果的です。

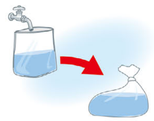


簡易水防工法例①
プランター＋ビニールシート
土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。



簡易水防工法例②
簡易水のう＋止水板
簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入り口に設置し、浸水を防ぎます。

「簡易水のう」の作り方



家庭で使用しているごみ袋（40リットル程度の容量）を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。